

令和7年9月

古市小学校 保護者 様

丹波篠山市立古市小学校
校長 中澤 昌樹

確かな学力と豊かな心を持ちみんなで伸びる古市っ子をめざして

今年度、4月に実施した5年生対象の「丹波篠山市学力状況調査」、6年生対象の「全国学力・学習状況調査」、5月に実施した3, 4, 5, 6年の「丹波篠山市生活習慣状況調査」についての結果がまとまりましたのでお知らせします。この調査の目的は、「児童の学習状況や生活状況を把握・分析し、授業改善や指導に生かす」というものです。

この調査結果は児童の学力のすべてを表したものではありませんが、学校全体で取り組んできたこれまでの学習の成果と課題の一部を見ることができると考えています。保護者の皆様にお知らせし、一緒になって取り組んでいきたいと考えていますので、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

1 調査結果の概要

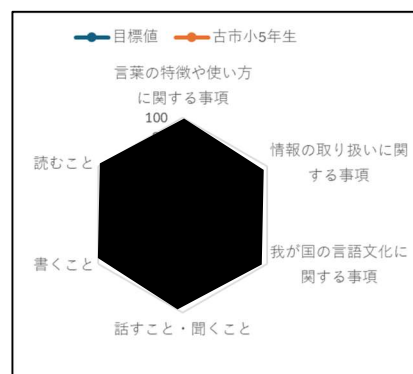
(1) 教科に関する調査

(丹波篠山市学力状況調査 5年生)

※目標値：学習指導要領に示された内容について、項目ごとに正答できることを期待した児童の割合を示します。この目標値を基に学力の定着度を見ています。

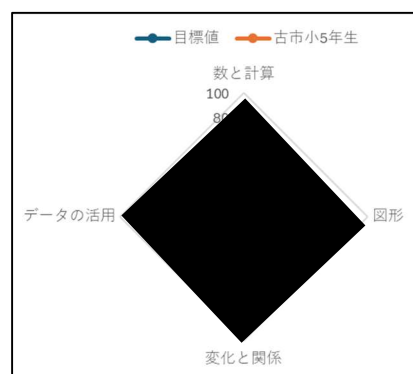
【国語】

※漢字を正しく読むことや物語の内容を読み取ることに成果がみられます。漢字を正しく書くこと、調べたことをもとに文章を書くこと、文章の構成や相手、目的を意識して伝えたいことを文で書くことに課題があります。書ける漢字や語彙を増やすことや言葉の意味を知り、話の中心となることは何かを考えて読んだり説明したりする力を伸ばすことが必要です。隙間時間に短い文章で自分の気持ちを表すことに取り組んだり、授業の中でテーマを決め要約を書いたりと継続的に取り組みます。



【算数】

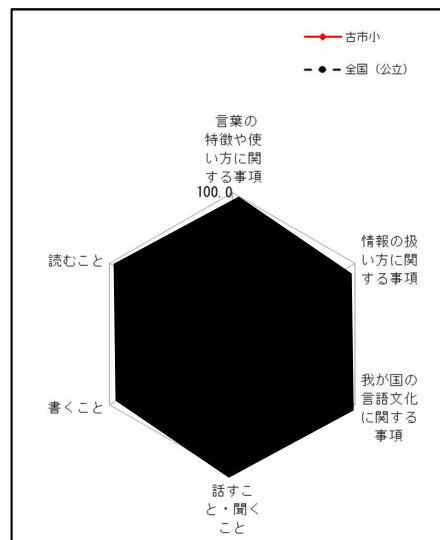
※小数のしくみや分数の大小比較、長方形の面積などに成果がみられます。概数に対する数の範囲やわり算の計算（小数を含む）、割合における基準量と比較量の関係に課題がみられます。題意を理解し、解へイメージを持ちながら、基礎的事項や公式を使って、根気よく基礎問題に繰り返し取り組む学習をすすめる必要があります。朝スキルの時間を活用し、前の学年の学習に遡り、基礎学力の向上と定着を目指します。また、毎年取り組んでいる「計算力チェックテスト」を継続して取り組むことを通して、既習内容の定着を図ります。



(全国学力調査 6年生)

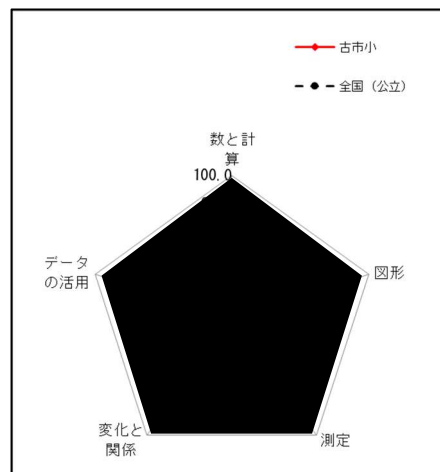
【国語】

※時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、文章全体の要旨を捉えることに一定の成果がみられます。また、目的や意図に応じて伝える内容を検討することにも成果がみられます。一方で話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめたり、順序だてて文章を構成したりすることに課題が見られます。また、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることに課題が見られます。複数の情報を比較したり結び付けたりしながら、自分の思いや伝えたいことを、限られた文字数の中で論理的に表記する力を伸ばすことが必要です。授業の中で、文章で考えを記述する場面を設定して取り組んだり、テーマや文字数が決められた中で表現したりと継続的に取り組みます。



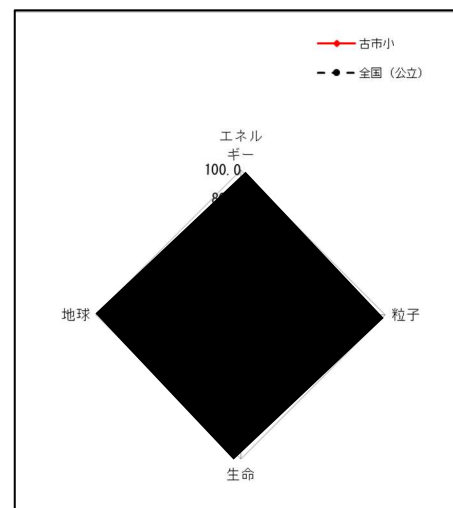
【算数】

※平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図する方法についての理解に成果が見られます。一方で分数の意味を理解したり、異分母の分数の計算をしたりすることに課題が見られます。また、図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて説明することに課題が見られます。計算の意味を理解したうえで、なぜその式と解につながるかの説明をしたり、考察できる力を伸ばしたりすることが必要です。授業の中で、計算の意味を言葉にして説明したり、複数の方法を考察したりできるような授業の改善や工夫に取組みます。



【理科】

※電気回路のつくり方について、実験の方法を発想し表記することに成果が見られます。また、水の状態変化について、知識を基に概念的に理解し、自然の事象に結び付けて考察することに成果が見られます。一方で植物のつくりや発芽の条件について理解したり、実験の条件や結果をもとに新たな問題を見出したり考察したりすることに課題が見られます。実験の際、差異点や共通点を基に疑問を持ち、考察したり仮説を立てたりする力を伸ばすことが必要です。体験的に学ぶ機会を積極的に取り入れ、子どもたち自身の疑問や考察を大切に取り組んでいきます。



(2) 学習や生活習慣に関する調査 生活習慣状況調査(3, 4, 5, 6年生)、学習状況調査(6年生)

○学級の絆

「今のクラスが好き。」「自分のクラスにはいいところがある。」「誰かが困っているときに助けてあげようという雰囲気がクラスにある」「クラス全員の一人ひとりのいいところと言える」という割合が9割を超え、全国平均よりも大変高く、学校においてみんなで学ぶことや活動することに喜びを感じているととらえています。今後も子どもたちにとっての学びの場である学校・学級づくりに努めていきます。

○成功体験と自信

「自分なりに、努力したことがうまくいって、うれしかったことがある」「勉強やスポーツ、習い事、しゅみなどで、自分なりに自信をもっていることがある」などと回答した割合は、全国平均より高い結果がでています。一方で、「自分には、いいところがあると思う」と答えた児童は高学年になるにつれて減少傾向にあります。今後も様々な経験を通じて、成功体験を積むことによって、一人ひとりの良さを認め合い、自尊感情や自己肯定感を育む教育活動を進めていきます。

○規範意識や社会参画

「学校のきまりや、クラスのみんなで決めたルールを守る」「近所の人にあいさつをする」の回答は、どの学年も非常に高く、規範意識は身につけているといえます。また、「お祭りやボランティア活動など、地域の行事に参加していますか」の回答は参加している割合が高く、地域とのつながりを大切にしながら、ルールを守ってあいさつができる古市っ子の育成を継続していきます。

○学習習慣

家庭での学習時間が全国平均に比べて短い傾向がみられます。「自ら学ぼうとする姿勢」や「学習習慣づくり」を4月に配布した家庭学習の手引きを中心に家庭と連携しながら進めていきます。また、どんな学習習慣を身につければよいか、クラスで子どもたちと話し合い、見直しを進めていきます。

○基本的な生活習慣

朝食を毎日食べている児童の割合は大変高いですが、食べたり食べなかったりする児童も少しあります。朝、自分で必ず起きる児童の割合は、全国より低い傾向があり、夜寝る時刻との関連があると考えられます。また、平日にゲームやインターネットを2時間以上使用する割合が全国平均より大幅に高いです。前日に持ち物の確認をする習慣や「早寝・早起き・朝ご飯」の取り組みを継続していきます。また、ふるいちインターネット利用宣言を子どもたちと見直すことで、利用の仕方の見直しを進めます。

2 学力向上、課題解決のための取組

学校は、集団の中で社会性の育成も含め、子どもたちの主体性を伸ばすべく指導・支援に、家庭・地域と連携し、全力で取り組んでいます。全体として、基礎的な生活習慣の定着は見られますので、学校における集団での学習機会を生かし、仲間と取り組む楽しさを味わわせながら、より学びあう活動を取り入れ、課題解決力・探究力育成に取り組めます。

「学んで楽しい」「わかるっておもしろい」「できるって自信になる」という実感を持つことで、子どもたちの学ぶ意欲を高めながら、自分の未来が自分で広げられるように、資質・能力の育成に取り組んでいきます。保護者の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。